

木下工業

10月から販売開始

自然と調和、都会的空間に

21区画の大型建売分譲地

飯田市北方の木下工業（小林伸社長）は、飯田市大瀬木に21区画の新築建売分譲住宅「ガーデンヒルズ大瀬木」を開発し、10月から販売を開始する。自

然と調和する都会的な空間を演出するなど、美しくデザインされた街並みを構築する。総面積は約1万平方メートルで、分譲する1区画は約300平方メートル（90坪）。設計は建築デザイナーの笠松豊さんが手掛けた。コンセプトである「住まい手の色に染まる家」と、南アルプスの自然を従えた住環境から「自然と同化



10月から販売を開始する建売分譲地（飯田市大瀬木）

した家造り」をテーマに掲げる。

敷地内はシンボルツリーの白樺をはじめ、花や紅葉など年間を通じて楽しめる植栽を施し、メインストリートにはインターロックキングを採用して石畳の雰囲気を再現。設置する門灯とスポットライトが夜間の優しい光とともに、犯罪抑止効果の役割を果たす。

自由設計も可能。分譲地は雨水・排水の整備が施され、進入路は6メートル幅道路。道路面には人工物を作らず植栽が彩り、子どもたちが遊べる小公園も隣接して設ける予定だ。価格は10月の販売開始と同時に正式発表するが、2000万円台後半からを予定している。

17日の安全祈願祭で木下長志会長は「リニア中央新幹線の駅ができれば、さまざまな環境が変わる。飯田は空気が水がおいしく、眺めがいい。まさに人が住む場所。人を呼び込めるような分譲地を造り上げたい」と話していた。